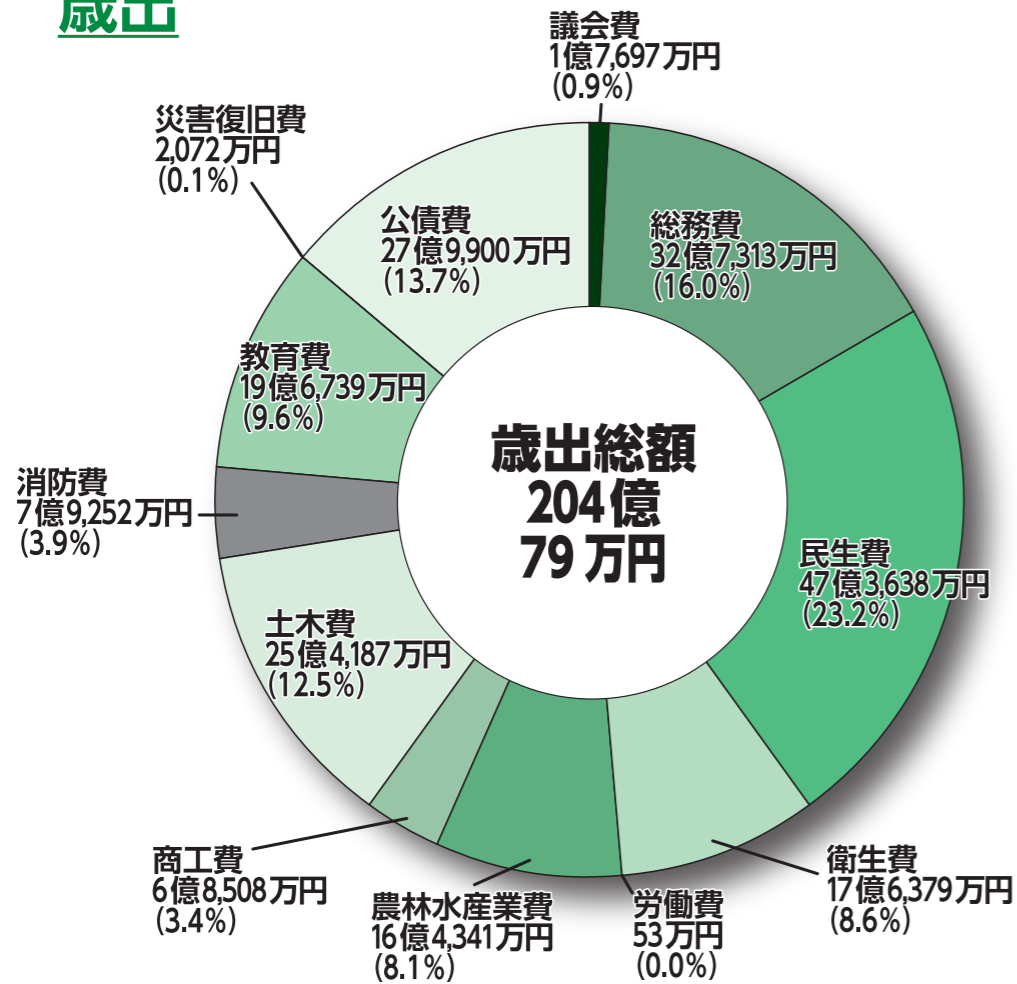
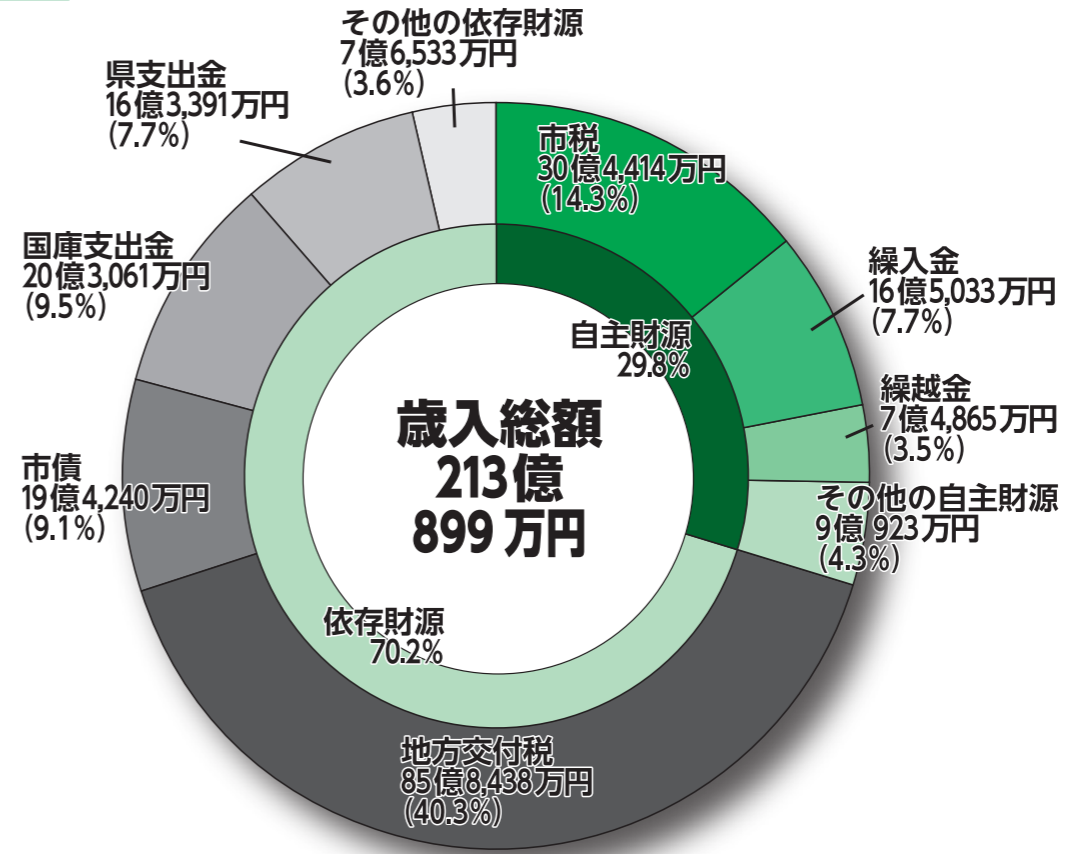


歳出



歳入



自主財源…市が自主的に収入できる財源 依存財源…国や県から交付される財源
 ※各数値は、1万円未満を四捨五入しているため、合計金額が一致しない場合があります。

会計名	収入額	支出額
国民健康保険(事業勘定)	40億 110万円	38億6,088万円
国民健康保険(診療施設勘定)	2億9,932万円	2億5,885万円
後期高齢者医療	2億5,802万円	2億5,671万円
公共下水道事業	4億7,457万円	4億4,550万円
農業集落排水事業	5億4,643万円	5億3,410万円
浄化槽事業	5,734万円	5,230万円
水道事業	収益的収支	5億6,817万円
	資本的収支	4億1,903万円
西根病院事業	収益的収支	8億6,387万円
	資本的収支	1億7,492万円

財政の健全度を表す指標

- ①実質赤字比率** 一般会計など税金が主な収入源の会計収支の赤字額が、標準財政規模(※)に占める割合です。本市は黒字なので、該当はありません。
- ②連結実質赤字比率** 企業会計を含む全会計の赤字額が、標準財政規模に占める割合です。本市は赤字や資金不足の会計はありません。
- ③実質公債費比率** 地方債の償還金などを標準財政規模で割ったものです。本市は前年度より1.0ポイント多い10.9%です。
- ④将来負担比率** 現在抱えている負債の大きさを標準財政規模で割ったものです。本市は前年度より9.2ポイント多い6.4%です。
- ⑤資金不足比率** 下水道など公営企業会計の資金不足を事業の規模と比較したものです。本市は資金不足の会計はありません。

※標準財政規模とは
 市が標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般財源の規模を示すもので、標準税収入などに普通交付税を加算した額となります。財政の指標となる①から⑤までの比率を計算するための分母となる重要な数字です。28年度の市の標準財政規模は、121億7,293万円です。

歳出で一番多くの割合を占めるのが、民生費の47億3,638万円(23.2%)で、子育て支援、障がい者や高齢者の福祉サービス、生活保護などのために使われました。次に多いのが、総務費の32億7,313万円(16.0%)で、将来に備えて基金への積み立てなどを行いました。前年度に比べ、大きく増加したのが、土木費の25億4,187万円(12.5%)、対前年度比2.1%増)です。除雪や橋梁補修工事、市道安比高原駅線改修工事、市道植立水沢線外

1舗装補修工事、市営町裏住宅建設工事の実施などによるものです。財政の弾力性を示す経常収支比率は、前年度より2.7ポイント上昇し、88.6%、財政力指数は、0.29でした。また、地方債残高は前年度より7億4,071万円減少し、178億4,334万円となりました。市は、より一層の経費削減などに努め、今後も効率的な行政運営を目指していきます。詳しくは、市役所企画財政課財政係(☎内線1202)まで。

歳出 道路や市営住宅の建設 土木費が2.1%の増

一般会計の歳出(支出)は、204億7,900万円でした。

歳入 前年度に比べ自主財源 比率が0.3ポイントの上昇

28年度の一般会計の歳入(収入)は、213億8,990万円でした。一番多くの割合を占めるのは、地方交付税の85億8,433万円(40.3%)で、前年度より6,349万円(対前年度比0.3%増)多くなっています。次に多いのが、市税の30億4,414万円(14.3%)、対前年度比0.2%増)で、3番目が国庫支出金の20億3,061万円(9.5%)、対前年度比0.1%増)でした。歳入のうち、自主財源は63億5,235万円(29.8%)で、依存財源が149億5,664万円(70.2%)となり、前年度に比べ、自主財源比率が0.3ポイント多くなりました。

8月23日から9月8日まで開かれた市議会第3回定例会で、平成28年度の一般会計など9会計の決算が認定されました。ここでは、決算の内容を財政の健全度を示す各種指標と併せて紹介します(金額は、1万円未満を四捨五入しています)。